

## カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査

診療科：呼吸器外科

適応症：肺癌、気管支前癌病変

主な内容：従来の気管支内視鏡観察では発見・診断が困難な早期肺門部肺癌や前癌病変を、カラー蛍光観察システムを用いて早期に発見・診断する。このような微小病変を早期に発見することにより、光線力学療などの低侵襲の治療により根治できる可能性が大きい。今回使用する AFI(Auto Fluorescence Imaging)は、青色励起光(390~440nm)に加えて、ヘモグロビンに吸収されやすい緑色の光(540~560nm)を組み合わせる蛍光観察システムである。腫瘍性病変では、正常組織と比較して青色励起光により自家蛍光が減弱するが、出血や炎症性病変においても自家蛍光が減弱する。そこで、上述の緑色の光を用いることで、ヘモグロビンの影響による情報を加味した画像表示により正常組織と腫瘍組織の識別がより安易になる。また、内視鏡のサイズ、形状も従来の気管支内視鏡とほぼ同様であり、白色光と蛍光による観察を手元の操作で簡単に切り替えることができるため、検査を受ける側の身体的負担は従来の白色光のみによる気管支鏡検査とほぼ同等である。